

第7次

岡崎市総合計画



The Master Plan of Okazaki City

【 目 次 】

1	総合計画の構成と計画期間	1
2	岡崎市の特性	3
	位置・地勢・面積	3
	歴史・沿革	4
	データからみる地域特性	5
	30年後の未来に向けて	12
3	総合政策指針	13
	総合政策指針とは	13
	総合政策指針の期間	13
	将来都市像	13
	基本指針	14
	都市のグランドデザイン	15
	分野別指針	19
4	未来投資計画	21
	未来投資計画とは	21
	分野別の主な取組	21
	未来投資パッケージ	36

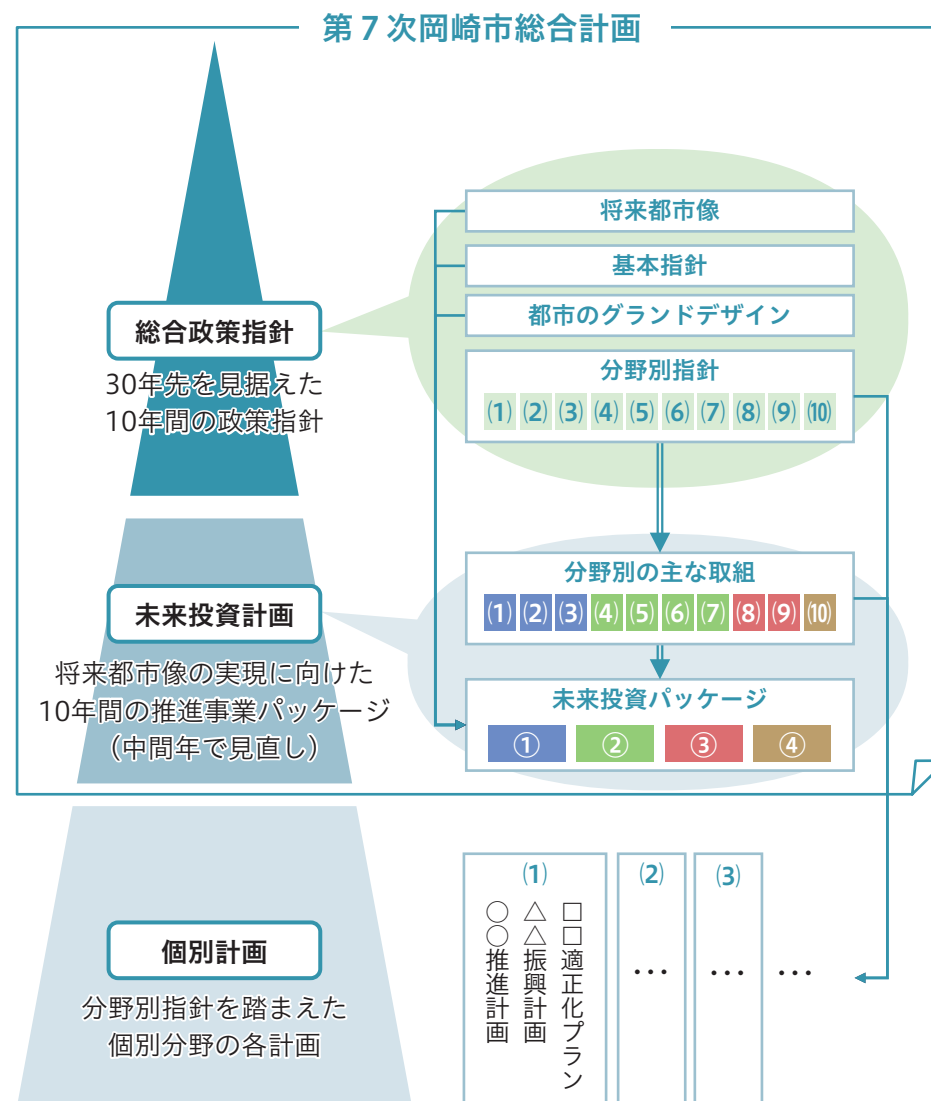
1 総合計画の構成と計画期間

第7次岡崎市総合計画は、総合政策指針と未来投資計画によって構成します。

総合政策指針は、30年後に岡崎市の目指す将来都市像を定め、その実現に向けて今後10年間（2021年～2030年）の分野別政策指針を示したものです。

未来投資計画は、将来都市像の実現に資する推進事業をパッケージとして目標設定・進捗管理を行うものです。計画期間は10年間で、中間年に見直しを行います。パッケージの推進事業内訳は社会経済情勢の変化を踏まえて随時変更していきます。

総合計画の分野別指針などを踏まえ、各部局が個別計画を策定します。総合計画と個別計画が一体となって、岡崎市の未来を切り拓く羅針盤を形成します。



2 岡崎市の特性

位置・地勢・面積

岡崎市は愛知県中央部に位置し、本市を含む周辺9市1町は、歴史的・経済的な背景から一体となって西三河を形成しています。

また、市域の北から南に矢作川が、東から西に乙川が流れています。その水源として市域の約6割にのぼる森林を有し、豊かな水環境と自然環境に恵まれた地にあります。

総面積387.20km²は、豊田市、新城市に次いで県内3番目の規模です。また、市街化区域面積58.53km²は、名古屋市、豊橋市に次いで県内3番目の規模です。

交通は広域利便性に優れ、J R東海道本線、名鉄名古屋本線及び愛知環状鉄道線の鉄道網や、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号、国道248号、国道473号の幹線道路網により、周辺都市や名古屋市との連携が図られています。



歴史・沿革

(1) 近代以前

古くは中世から鎌倉街道矢作東宿として集落が整い始めたといわれています。それ以降、岡崎城の城下町、東海道五十三次の宿場町、多くの寺院の門前町として発展してきました。

(2) 近代以降

明治22年の町村制施行により岡崎町が誕生しました。この頃から、水力（水車）による綿紡績（ガラ紡）が盛んになり、岡崎の産業革命時代として大いに繁栄しました。大正5年には市制を施行し、岡崎市が誕生しました。

(3) 現代

昭和20年、戦災による大被害を受けましたが、その後は焦土からの復興に努め、昭和46年には市街地再開発組合の認可（全国第1号）を受けて再開発が施行されました。また、市街化区域の約3割を土地区画整理事業により整備してきました。このような過程を経て、現代では西三河の教育、文化、金融、産業、交通の中心地として栄えてきました。平成15年には中核市へ移行、平成28年には市制100周年を迎え、平成30年には内閣府より中枢中核都市の指定を受けました。

本市の歴史を振り返ると、歴史により積み重ねられた伝統を活かしながら、そして、その一方で時代の節目には柔軟に機能や役割を変化させながら、800年もの長期にわたり三河広域で中心的な役割を果たしてきたことが読み取れます。



東海道五十三次 岡崎宿



歴史を見守ってきた岡崎城

データからみる地域特性

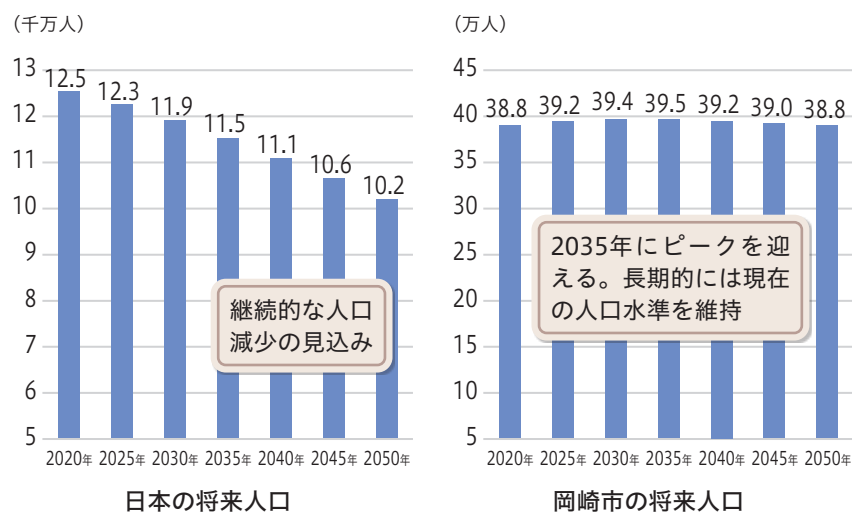
ここでは、(1)で人口について岡崎市と全国の状況を把握します。その他の特性については、(2)で西三河と全国の状況を比較したうえで、(3)で西三河における岡崎市の特性を分析します。

(1) 将来人口と転入・転出の状況

◆ 岡崎市の人口ピークは2035年

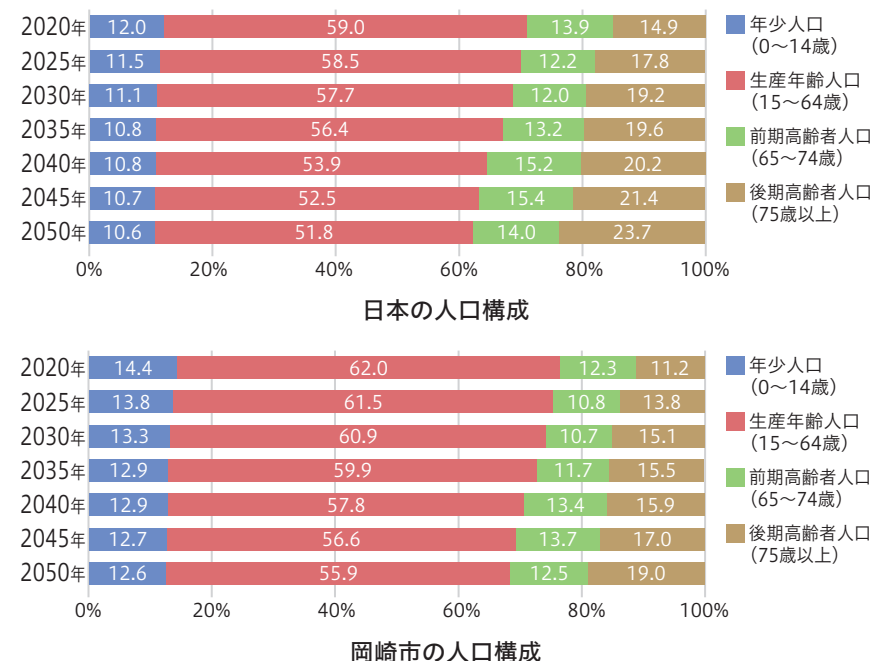
日本の将来人口推計では、継続した人口減少が見込まれます。2050年には2020年に比べて約20%減少し、1.02億人になると推計されています。

本市の将来人口推計では、2035年まで緩やかな増加傾向ですが、その後は緩やかな減少に転じます。30年後の2050年には、ほぼ現在と同等の人口規模が維持されると推計されています。



◆ 生産年齢人口は全国水準を引き続き上回る

将来人口推計における人口構成では、岡崎市の生産年齢人口は減少傾向にあるものの、将来においても全国平均を上回る一定の水準が維持されると推計されています。

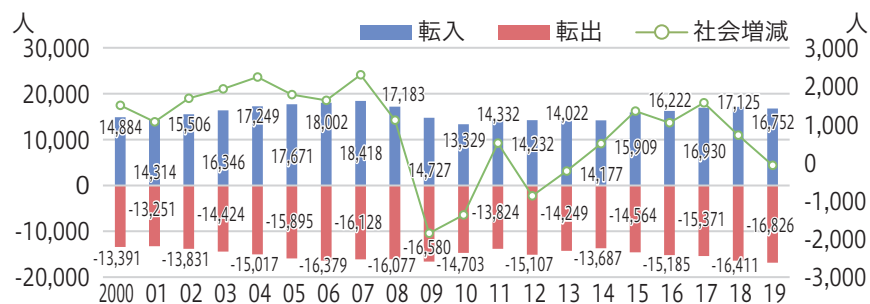


出典 (日本)：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2017)

出典 (岡崎市)：岡崎市「岡崎市の将来推計人口」(2018)

◆ 緩やかな社会増

これまでの社会増減をみると、リーマンショックの影響を受けた2009年や2010年を除き、おおむね転入超過で推移しています。毎年多くの転入・転出があり、活発な移動の状況が見て取れますが、経済不況の際は、転出超過になる傾向があります。

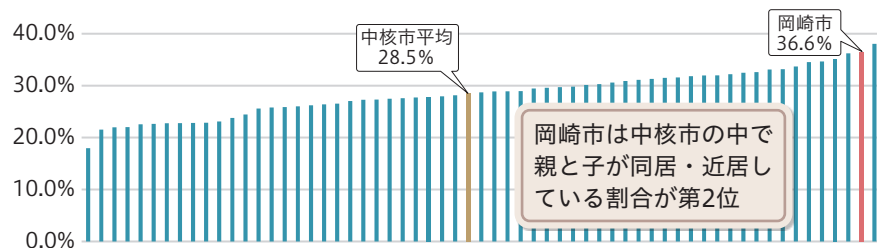


転入・転出者の推移

出典：岡崎市「岡崎市の人口 令和2年版」(2020)

◆ 三世代同居・近居率

岡崎市は、全国比較で親と子が同居・近居している割合が非常に高い水準にあります。



※世帯主65歳以上単独世帯・夫婦のみの世帯のうち、子が同居または片道15分未満のところに住んでいる割合(中核市)

三世代同居・近居率

出典：総務省「住宅・土地統計調査」(2018)

◆ 子育て世帯や女性の転入超過を目指して

社会移動の内訳を年齢別、地域別にみると、県内では幸田町及び名古屋市への転出超過の傾向がみられますが、男女ともに20代から40代で特に多くなっています。また、県外では主に20代で東京への転出超過がみられます。女性は転入超過ですが男性に比べて非常に少なくなっています。以上から、子育て世帯や女性を呼び込むまちづくりが今後の課題といえます。

転入・転出	男						女					
	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳
総数	409	-43	-39	389	79	93	12	2	-21	68	26	-10
県内総数	459	29	-7	300	93	71	38	9	8	25	32	-1
名古屋市	-139	3	-11	-43	-53	-2	-125	8	-5	-91	-12	-9
豊橋市	69	10	6	16	13	17	50	20	-3	30	-2	6
豊川市	0	2	-6	18	-12	6	2	-12	2	13	2	-2
碧南市	29	-2	3	16	4	6	4	-1	1	6	-2	0
刈谷市	79	13	9	42	18	-6	26	3	4	1	12	2
豊田市	291	9	-12	147	90	44	85	25	4	32	6	10
安城市	96	17	-2	33	14	6	6	8	-2	-4	20	-6
西尾市	-4	-15	0	12	11	-5	5	-13	2	19	5	-3
蒲郡市	4	-9	2	16	-6	5	11	-7	1	14	-2	3
知立市	29	10	5	8	8	0	21	5	2	10	7	-2
高浜市	0	0	2	-3	1	0	6	3	3	-4	1	5
みよし市	8	-1	-1	3	1	4	6	-3	1	0	7	0
幸田町	-107	-16	-10	-27	-34	-19	-104	-31	-7	-21	-28	-9
県内その他	104	8	8	62	38	15	45	4	5	20	18	4
県外総数	-50	-72	-32	89	-14	22	-26	-7	-29	43	-6	-9
東京都	-120	-2	-23	-84	-4	-10	-121	0	-14	-79	-7	-13
南関東(含東京)	-140	-15	-36	-86	-3	-6	-166	1	-18	-122	-3	-17
岐阜県	17	-6	1	28	1	0	55	-4	2	48	7	2
静岡県	5	-13	2	21	-9	1	8	3	3	4	0	3
三重県	52	-1	19	36	5	1	31	7	-5	9	12	6
大阪府	1	-3	-4	21	0	-8	-33	2	-9	-3	-10	-8
県外その他	-13	-40	-21	56	-20	39	40	-26	-7	85	-12	-1

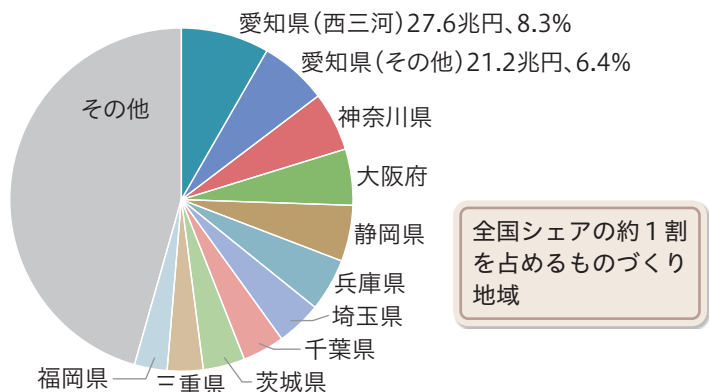
2015～2017年年齢別・地域別移動状況

出典：総務省「住民基本台帳移動報告」(2017)

(2) 日本における西三河地域

◆ 日本を牽引する製造業の集積地

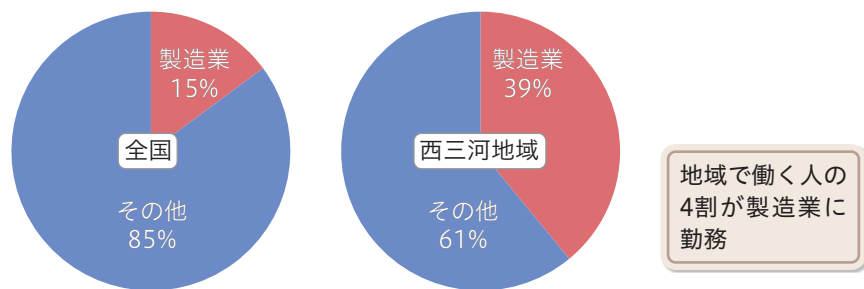
岡崎市を含む西三河地域は製造品出荷額等の全国シェア約1割を占めるものづくり地域です。これは、どの他県よりも大きな数値です。



H30製造品出荷額等のシェア

出典：経済産業省「工業統計調査」(2019)

また、従業者全体に占める製造業の比率も約4割を占め、全国に比べて2.6倍となっています。

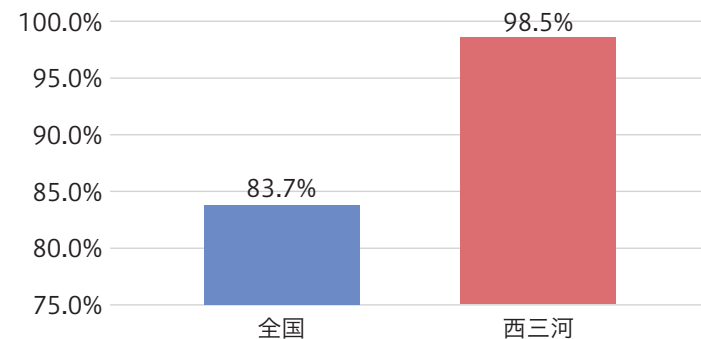


製造業従業者数のシェア

出典：総務省「経済センサス基礎調査」(2014)

◆ 減らない将来人口

全国の人口は2045年に現在の約8割まで減りますが、西三河地域は概ね現状と同水準を維持すると推計されています。

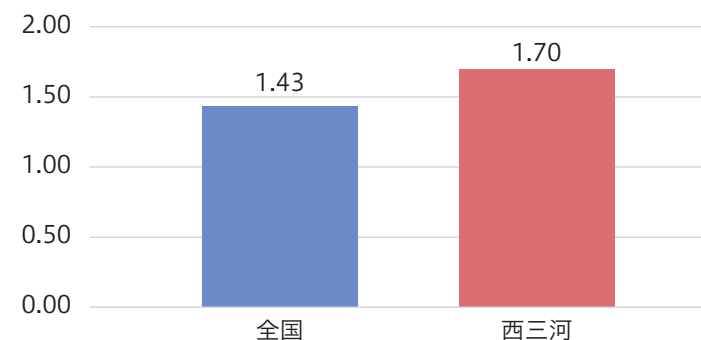


人口変化 (2045/2015)

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2018)

◆ 高い合計特殊出生率

合計特殊出生率をみると、西三河地域は全国を大きく上回っています。

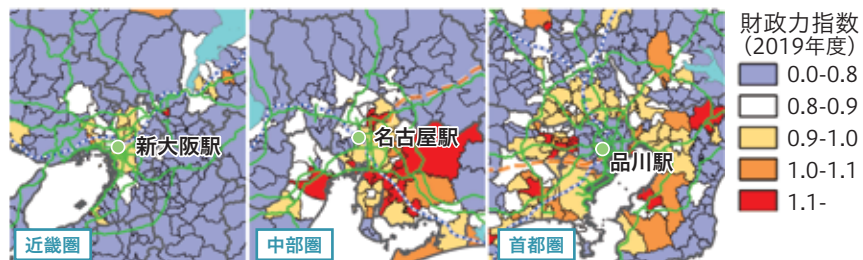


合計特殊出生率

出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」(2017)

◆ 強い財政力

強い製造業、産業を支える人口により、首都圏・近畿圏や中部圏内部で比較しても、西三河は財政力の高い自治体が多いと言えます。



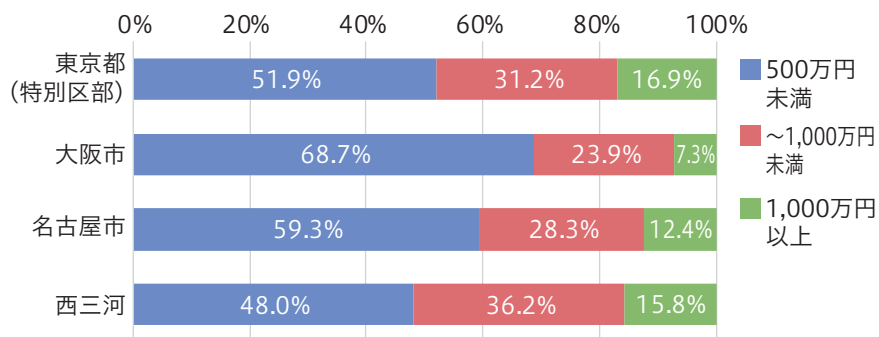
【財政力指数】地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。1.0以上の地方公共団体は地方交付税交付金の不交付団体となる。東京都特別区については、算出方法が異なるために単純には比較できない。

圏域別財政力指数マップ

出典：総務省「地方財政状況調査」(2019)より作成

◆ 高い所得水準

西三河の年収500万円以上の世帯比率は50%を超えており、三大都市の水準を上回っています。

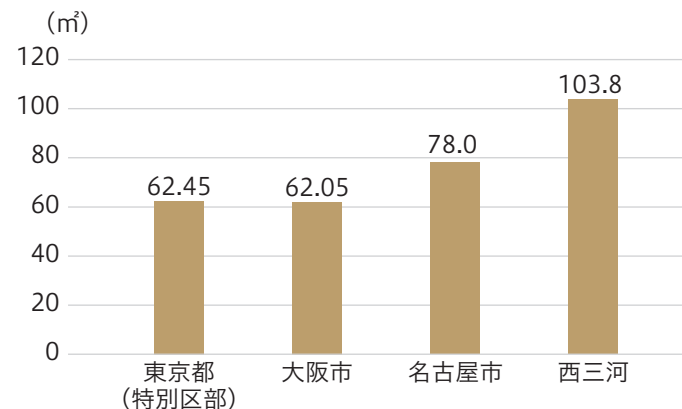


収入別の世帯比率

出典：総務省「就業構造基本調査」(2017)

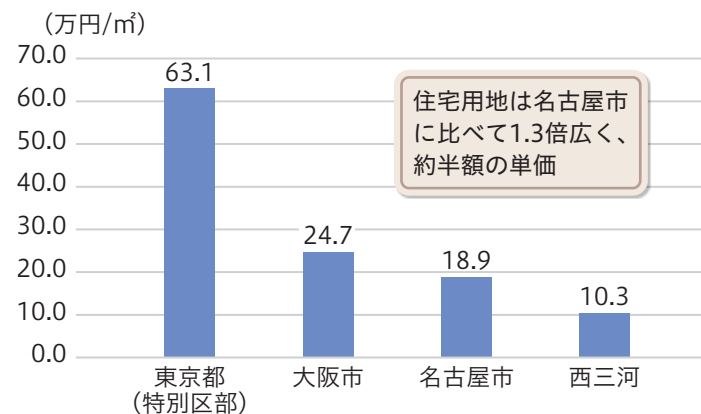
◆ 安くて広い住宅

1住宅当たりの延べ面積では、各都市と比較して西三河が最も広くなっています。また、単位面積当たり住宅用地価格では、各都市と比較して西三河が最も安価となっています。



1住宅当たりの延べ面積

出典：総務省「住宅・土地統計調査」(2018)



単位面積あたりの住宅用地時価

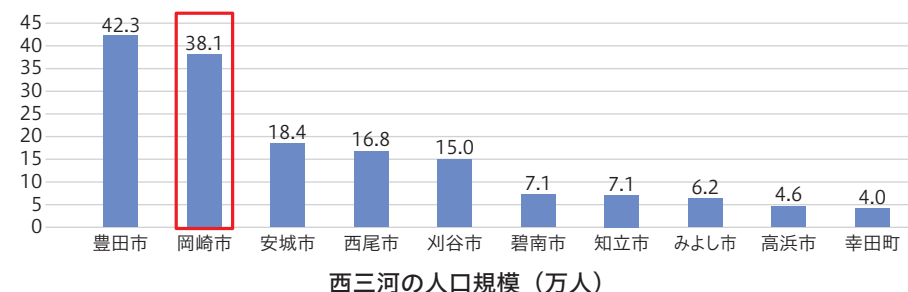
出典：国土交通省「地価公示」(2020)

(3) 西三河地域における岡崎市

◆ 人口動態

☑ 西三河 2 位の人口規模

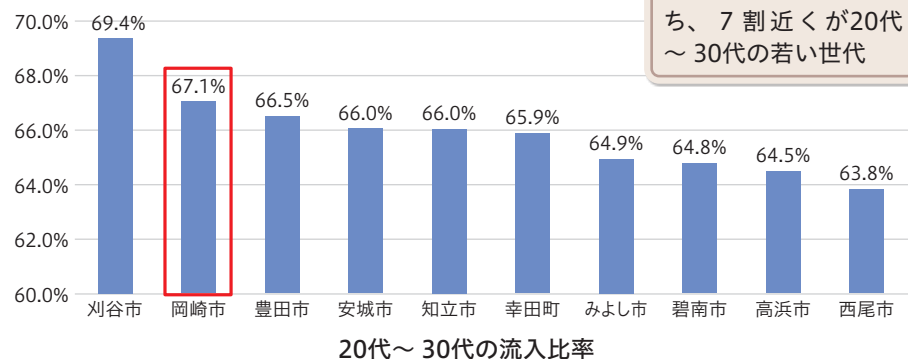
西三河では、豊田市に次いで 2 番目の人口となっています。豊田市と共に内閣府から中枢中核都市の指定を受け、近隣市町村を含めた圏域の拠点としての役割を期待されています。



出典：総務省「国勢調査」(2015)

☑ 若い世代の流入が多い

20代～30代の流入比率では、西三河全域で60%を超える高い水準にあり、そのなかでも岡崎市は 2 番目に高い水準です。

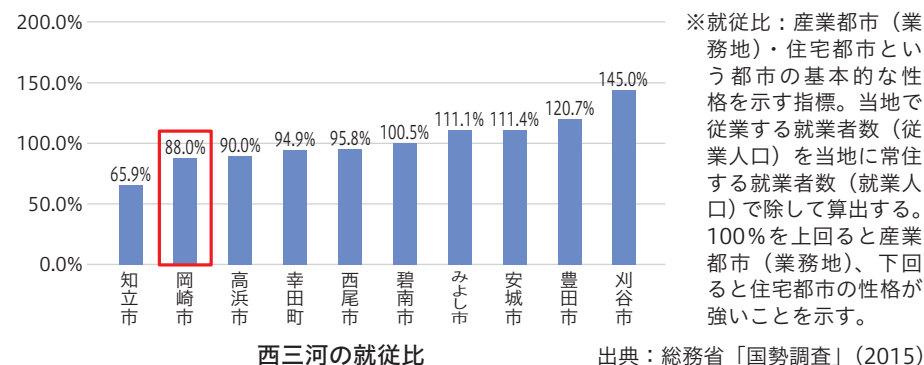


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2019)

岡崎市への転入者のうち、7 割近くが20代～30代の若い世代

☑ 住宅都市としての傾向が強い

就従比をみると、知立市に次いで西三河の中で2番目に低くなっています。また100%を下回っており、住宅都市としての性格が強いと言えます。

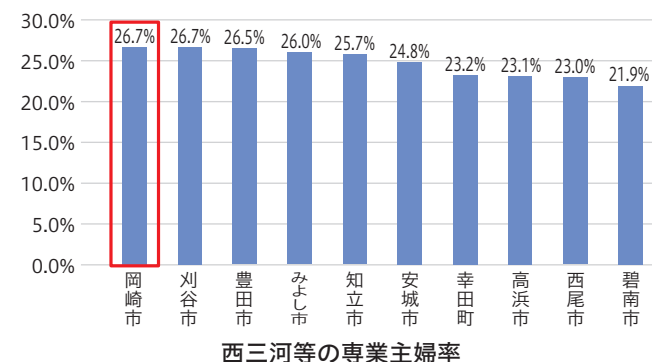


出典：総務省「国勢調査」(2015)

※就従比：産業都市（業務地）・住宅都市という都市の基本的な性格を示す指標。当地で従業する就業者数（従業人口）を当地に常住する就業者数（就業人口）で除して算出する。100%を上回ると産業都市（業務地）、下回ると住宅都市の性格が強いことを示す。

☑ 高い専業主婦率

専業主婦率は西三河の中で最も高くなっています。

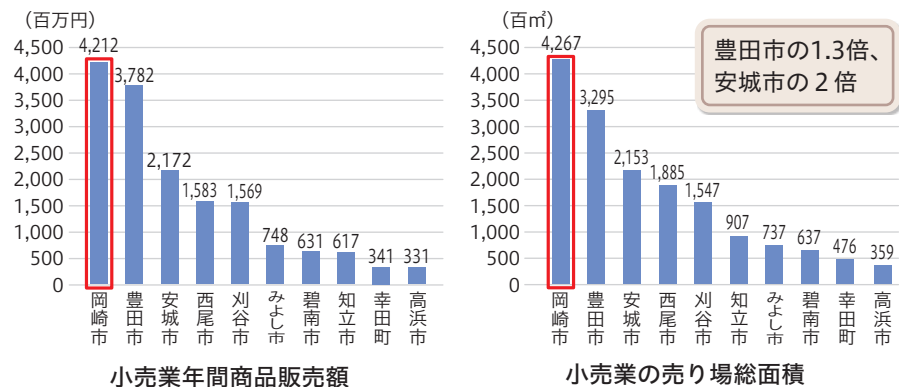


出典：総務省「国勢調査」(2015)

◆ 産業

☑ 西三河の商業の中心

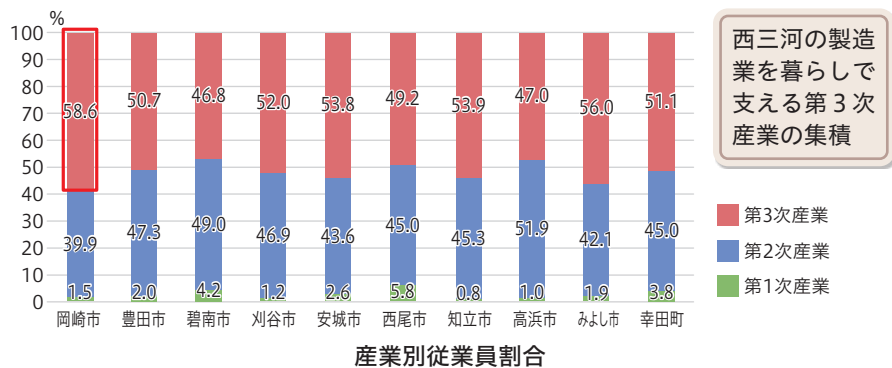
小売業年間商品販売額及び小売業の売場面積はどちらも西三河の中で最も高くなっています。



出典：総務省「経済センサス活動調査」(2016)

☑ 第3次産業の割合が高い

産業別の従業員割合をみると、岡崎市は、西三河の中では比較的第2次産業の割合が低く、第3次産業の割合が高くなっています。

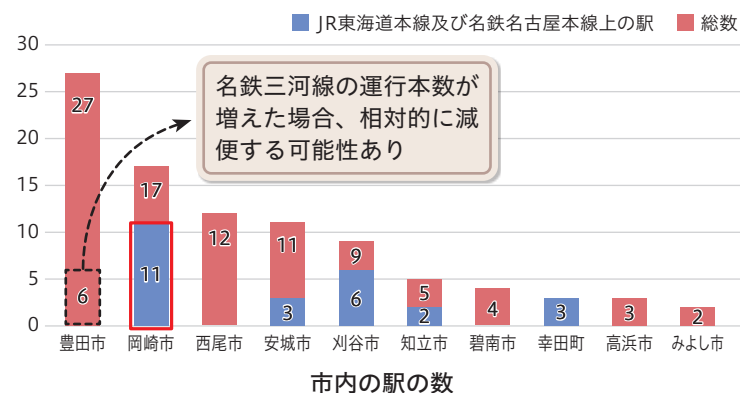


出典：総務省「国勢調査」(2015)

◆ 拠点性

☑ 本線駅の数が多い

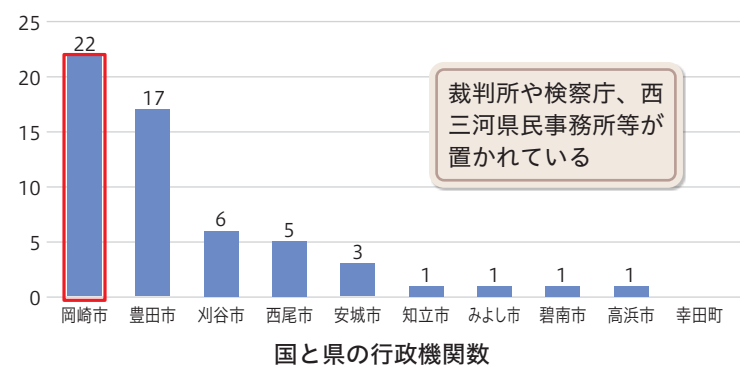
各種鉄道の駅の数について、本線上の駅数は西三河の中で最も多くなっています。



出典：東海旅客鉄道株式会社及び名古屋鉄道株式会社HPより作成

☑ 国や県の行政機関の数が多い

国と県の行政機関数が最も多く、西三河の行政機能の中核を担っていると言えます。



出典：国土交通省「国土数値情報 国・都道府県の機関データ」(2013)

◆暮らし

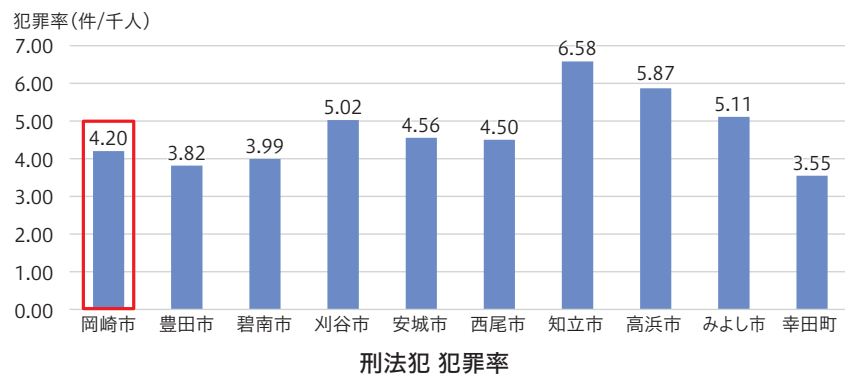
☑ 高い地域力

自治会加入率は約90%と最も高い部類に入り、地域の結びつきが強いことがうかがえます。



☑ 治安のよい都市

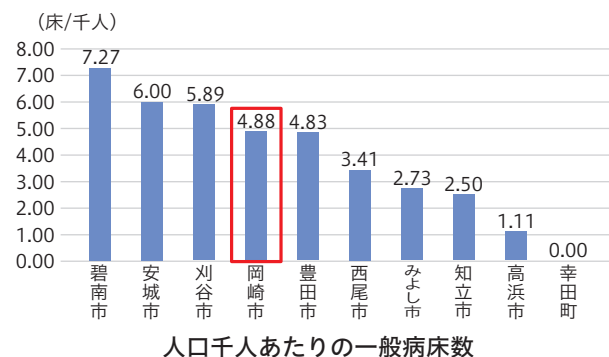
犯罪率は西三河の中で中位ですが、現在設置を推進している防犯カメラの効果により、今後の減少が期待されます。



※犯罪率：1,000人当たりの認知件数
出典：愛知県 市町村別犯罪発生状況 (2020年12月末現在 暫定値)

☑ 中程度の病床数

一般病床数をみると、岡崎市は西三河の中で4番目と、最も高い碧南市と比べて約70%程度の病床数となっています。

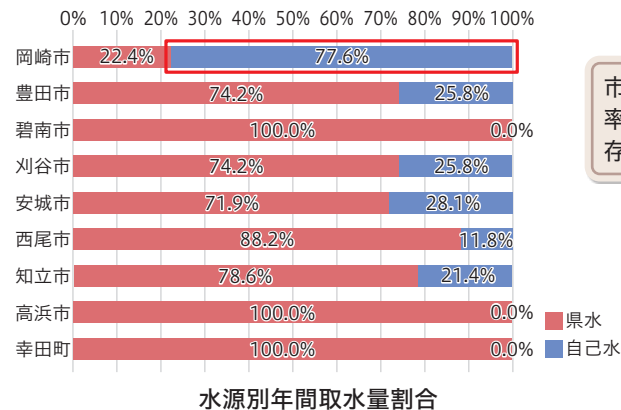


※岡崎市は以下統計のデータに、藤田医科大学岡崎医療センター(2020年開院)の病床数(400床)を加えた数値

出典：厚生労働省「医療施設調査」(2019)、総務省「住民基本台帳」(2019)

☑ 豊富な水資源

自己水(県水以外の項目)の割合が西三河の他市町と比べて非常に高く、県水への依存率が低くなっています。



市内山間部水源の利用
率が高く、県水への依
存率が低い

※みよし市はデータなし
出典：愛知県「水質年報」(2018)

30年後の未来に向けて

国が描く将来像では、少子高齢化や公共施設老朽化が懸念されています。しかし、その一方でICT技術の進化などを新しい価値やサービスの創出につなげていく社会、一人一人が快適で活躍できる人間中心の社会を構築していく方向性が示されています。また、これと並行して持続可能な社会の構築や、リニア中央新幹線開業によるスーパーメガリージョン形成に向けた取組が進められていきます。

このような将来の見通しに加え、岡崎市の歴史や将来推計人口などの地域特性を踏まえて、30年後の将来都市像を構想します。

将来社会の見通し



岡崎市の 将来都市像

岡崎市の歴史や地域特性

〈地勢〉

- ・ 一体的な西三河
- ・ 豊かな水環境と自然環境
- ・ 県内3番目の面積
- ・ 恵まれた広域交通

〈歴史〉

- ・ 積み重ねられた伝統
- ・ 時代の節目で柔軟に役割を変化
- ・ 800年続く広域拠点性

〈岡崎の人口〉

- ・ 長期的に人口規模を維持
- ・ 高い生産年齢人口比率
- ・ 緩やかな社会増
- ・ 子育て世帯や女性の転入増が課題
- ・ 高い3世代同居・近居率

〈地域特性 日本における西三河〉

- ・ 日本を牽引する製造業
- ・ 高い合計特殊出生率
- ・ 高い所得水準
- ・ 長期的に人口規模を維持
- ・ 強い財政力
- ・ 安くて広い住環境

〈地域特性 西三河における岡崎市〉

- ・ 大きな人口規模
- ・ 多くの本線駅
- ・ 若い世代の流入が多い
- ・ 多くの国県行政機関
- ・ 強い住宅都市傾向
- ・ 高い地域力(町内会)
- ・ 高い専業主婦率
- ・ 治安のよさ
- ・ 西三河商業の拠点
- ・ 中程度の病床
- ・ 西三河の製造業を暮らしで支える第3次産業